



St. Luke's International University Chapel

聖路加国際大学聖ルカ礼拝堂

〒104-0044 東京都中央区明石町 10-1 TEL 03-5550-2416 (事務室)

E-mail : chapel@luke.ac.jp URL <http://nsskk.org/tokyo/church/luke>

マルコ福音書 9 : 38-48 (聖霊降臨後第 19 主日、24/09/29)

「永遠なる命」

チャプレン ヨナ 成成鍾司祭

アメリカの詩人、ウィリアム・スタフォード (William Stafford, 1914-1993) の「生きることは (The Way It Is)」という詩があります。「あなたが従っている一筋の糸がある。その糸は、変わっていくものの中を貫く。しかし、その糸は変わらない。あなたが何に従って歩んでいるのか、人々は知りたがる。あなたは、その糸のことについて説明しなくてはならない。しかし、人々がそれを見るのは難しい。その糸を握り締めている間、あなたは道に迷うことはない。悲劇的なことが起こり、人々は傷つけられ、また死んで行く。そしてあなたも悩み苦しまれ、年老いて行く。時間が作り上げていくことを、あなたはどうにも止めることはできない。そうであるにも拘わらず、あなたは決して糸を放してはならない。」私たちに一筋の糸が与えられています。その糸について、うまく説明できる人もできない人もいますが、誰の手にも握られています。中には残念ながらそれに気づいていない人もいますが、その糸は変わらない価値なので決して放してはなりません。この世においてはその糸について様々な呼び方がありますが、キリスト教ではそれを「永遠なる命」というふうに表現することがあります。

キリスト教には特別な人間観や人生観があります。その一つは、人間の命というのは、この世での一回切りの人生だけではないということです。つまり、この世の命は永遠なる命につながる、という理解があるのです。この世の命が大切である理由は、神の国でも続く永遠なる命のための準備期間であるからです。永遠なる命というのは、慈善活動や神学的な知識の蓄積で獲得できるものでも、教会に通い洗礼や堅信を受けることで、或いは聖職につくことで頂けるものでもありません。神様を信じて洗礼を受けたら救われるのだから永遠なる命も自動的に手に入ると思われがちですが、実はそうではありません。永遠なる命は一回の洗礼を通して頂けるものでも、定期的に教会に通い礼拝を捧げることを通して得られるものでもないのです。そうであるならばどのようにすれば永遠の命、つまり今日の福音書を通して「キリストが目や手足を切り捨てて全てを放棄することがあっても獲得しなくてはならない」(43 - 48 参考) と教えられた永遠なる命を頂くことができるのでしょうか。

喩えを用いて考えますと、それはプラモデルの模型を組み立てていく過程に似ています。私たちは神様を信じ洗礼を受けることを通して、永遠なる命という組み立て式の模型をプレゼントとして頂きます。しかし、その模型を頂いただけで、永遠なる命が自分のものになったとは言えません。永遠なる命の実現のためには、先ず永遠なる命という模型が入っている箱を開け、時間をかけながら説明書を読んで、工夫を重ねながら模型を組み立てて行かなくてはなりません。そのように組み立てる過程が私たちに与えられた課題であり、救いの道なのです。永遠なる命のために、神様の前で自分という存在の箱を開いて、聖書のみ言葉に心を留めながら自己を省察し、また神様の愛と真理の中で自分を整えていく過程が求められるのです。

私たちに永遠なる命が約束され、今の人生はそのための準備過程だと言えます。つまり、この世での人生とは、すでに蒔かれている永遠なる命という種に水をやりながら丁寧に育てていく過程、プレゼントとして頂いた永遠なる命という模型を組み立てながら、完成を準備する過程なのです。それゆえ、どんなことがあろうとも、すでに手に握っている一筋の糸、永遠に続く命を決して手放すことのない皆さんでありますようにお祈りいたします。

(※聖書は裏面に記載されています)

<福音書> マルコによる福音書 9章 38～43, 45, 47～48 節

³⁸ヨハネがイエスに言った。「先生、あなたのお名前を使って悪霊を追い出している者を見ましたが、私たちに従わないので、やめさせました。」³⁹イエスは言われた。「やめさせてはならない。私 ^{わたし} の名 ^な を使って奇跡 ^{きせき} を行 ^{おこな} い、そのすぐ後 ^{あと} で、私 ^{わたし} の悪口 ^{わるくち} は言えまい。⁴⁰ 私 ^{わたし} たちに逆 ^{さか} らわ ^{もの} ない者 ^{わたし} は、私 ^{わたし} たちの味方 ^{みかた} なのである。⁴¹よく言 ^い っておく。あなたがたがキリスト ^{ぞく} に属 ^{もの} する者 ^{りゆう} だという理由 ^{いっばい} で、一杯 ^{みず} の水 ^の を飲 ^{ひと} ませてくれる人 ^{かなら} は、必 ^{むく} ずその報 ^う いを受 ^う ける。」

⁴²「また、私 ^{わたし} を信 ^{しん} じるこれら ^{ちい} の小 ^{もの} さな者 ^{ひとり} の一 ^{もの} 人 ^ひ をつま ^{いし} ずか ^す せる者 ^{くび} は、ろば ^ひ の挽 ^{いし} く石 ^す 臼 ^く を首 ^く に懸 ^く けられて、海 ^{うみ} に投 ^な げ込ま ^こ れてしま ^こ うほう ^{かたほう} がは ^て るかによ ^て い。⁴³もし片 ^{かたほう} 方 ^て の手 ^て があ ^{かたほう} なた ^て をつま ^{かたほう} ずか ^て せるなら、切 ^き り捨 ^す てな ^き さい。両 ^{りょう} 手 ^て がそ ^き ろった ^ひ まま ^{なか} ゲ ^お ヘ ^{かた} ナ ^て の消 ^{かた} え ^た ない ^{かた} 火 ^た の中 ^{かた} に落 ^{かた} ち ^た るよ ^{かた} りは、片 ^{かた} 手 ^た にな ^{かた} って ^{かた} 命 ^{かた} に入 ^{かた} るよ ^{かた} うがよ ^{かた} い。⁴⁵もし、片 ^{かた} 方 ^{かた} の足 ^{あし} があ ^{かた} なた ^{あし} をつま ^{かた} ずか ^{あし} せるなら、切 ^{かた} り捨 ^{あし} てな ^{あし} さい。両 ^{りょう} 足 ^{あし} がそ ^{あし} ろった ^{あし} まま ^{あし} ゲ ^{あし} ヘ ^{あし} ナ ^{あし} へ投 ^{あし} げ ^{あし} 込ま ^{あし} れるよ ^{あし} りは、片 ^{あし} 足 ^{あし} にな ^{あし} って ^{あし} 命 ^{あし} に入 ^{あし} るよ ^{あし} うがよ ^{あし} い。⁴⁷もし片 ^{かた} 方 ^{かた} の目 ^め があ ^{かた} なた ^め をつま ^{かた} ずか ^め せるなら、え ^{かた} ぐ ^め り出 ^{かた} し ^め な ^{かた} さい。両 ^{りょう} 目 ^め がそ ^{かた} ろ ^め った ^{かた} ま ^め ま ^{かた} ゲ ^め ヘ ^め ナ ^め に ^め な ^{かた} こ ^め れるよ ^{かた} りは、一 ^{かた} つ ^め の目 ^め にな ^{かた} って ^{かた} 神 ^{かた} の ^め 国 ^{かた} に入 ^{かた} るよ ^{かた} うがよ ^{かた} い。⁴⁸ゲ ^{かた} ヘ ^{かた} ナ ^{かた} では ^{かた} 蛆 ^{かた} が ^{かた} 尽 ^{かた} き ^{かた} るこ ^{かた} と ^{かた} も、火 ^{かた} が ^{かた} 消 ^{かた} え ^{かた} るこ ^{かた} と ^{かた} も ^{かた} ない。